

74才になって挑戦

北海道新ひだか町静内地区農業担い手育成支援協議会
会長 有田英二

土壌医受験のきっかけとなったのは、既に2023年度に受験された農業後継者の方からの紹介です。私は現在、新ひだか町静内で農業担い手育成支援協議会会長として活動しています。私は稲作専門農家の三代目後継者として現在に至っていますが、時代の変遷により、昨今は施設園芸でミニトマトを栽培しています。

私が作物を栽培する上で一番注意してきたのは、物理性を良くすることです。まず、透排水を良くすること、毎年馬糞堆肥を投入すること、緑肥を栽培すること、に取り組んできました。

実はここ数年、担い手対策の一環として、新規就農者の圃場の巡回指導をする機会が増えてきました。2024年度より縁が有り、新規就農者の方に経営継承をすることになり、多少時間のゆとりが出来たので、担い手対策指導を更に充実して行きたいとの思いから、従来よりも多くの圃場を見せて頂いています。

指導では、圃場での体験談も語りますが、間違った技術的なアドバイスは出来ません…。そこで、改めて専門的な勉強をすることになりました。そうした中で、土壌医検定試験を知り、受験のために参考書「土づくりと作物生産」のページを開くことになりました。

土壌医検定試験の勉強をして、土壌の「化学性」、「物理性」、「生物性」について、改めて必要性を痛感しているところです。また、土壌医を勉強している農業者の方とは、話が通じるという点がとても大きいと思います。

担い手の方々には、土壌医受験の必要性を説き、是非、個々の知識を高めて行くことを指導して行きたいと思っております。